

(1面からつづき)

あなたの職場は大丈夫？

それ「ジタハラ」じゃないですか？

ジタハラとは「時短ハラメント」の略称です。長時間労働を削減するための具体的な施策がないままに「定時帰り」を強要したり「残業するな」と呼びかけることによるハラースメントです。ジタハラの問題は、具体策を講じていない職場もありま

大阪府は、全国にも先駆けて「行財政改革」を推進し、2014年には職員基本条例を制定し「任命権者は最少の経費で最大の効果を挙げるために簡素で効率的な組織の運営に努める」「5年ごとに職員数の管理の目標を定め、これを公表する」(第3条)と定め、徹底的に職員削減を進めてきました。その結果、1995年度に比べて職員数は約半減(16,953人↓8,464人)し、時間外勤務も増加傾向となっていました。

「労働時間の適正な把握のために使用者が講ずべき措置に関するガイドライン」を踏まえ、時間外勤務の適正な管理に努めるよう求めている総務部長通知(2017年6月27日)にも反する行為です。

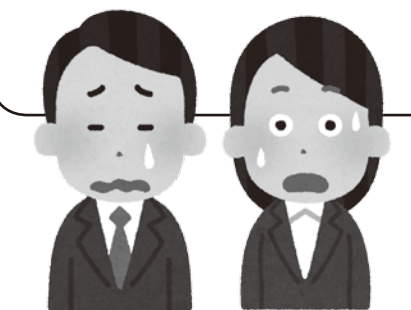
また、府当局はこの間の府職労との交渉においても「(時間外申請を認めない、サビス残業を強要する実態があれば)個別に対応する」と答えています。サビス残業の根絶「ジタハラ」をなくすためには、職場の労働組合の力が大切です。みんなで労働組合に加え、健康に働き続けられる職場をつくりましょう！

「ジタハラ」と感じたら府職労に相談を！

職場の声

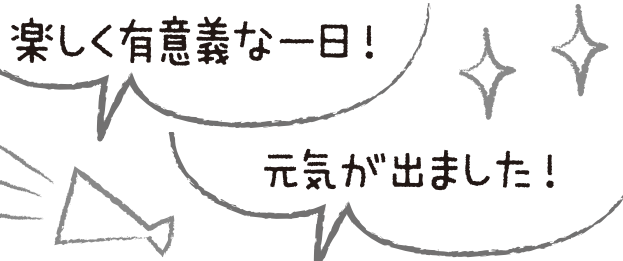
- 相談業務を行ったあとに相談記録作成のために残っていたら「時間外申請するな」と上司に言われた。
- 「残業は〇時間までならつけてもいい」と上限を決められた。
- 育児のため平日は残業できないが、仕事が終わらないので休日出勤させてほしいと言ったが「時間外は平日にするように」と言われて、休日出勤がサビ
- 以前の職場で時間外勤務申請していた業務を申請したら怒られた。
- 利用者対応が仕事なので事務的な業務で残っても時間外ではないと言われた。
- 「残業は〇時間までならつけてもいい」と上限を決められた。
- 育児のため平日は残業できないが、仕事が終わらないので休日出勤させてほしいと言ったが「時間外は平日にするように」と言われて、休日出勤がサビ

- 「21時までで良い」と言われた。
- 20時まで残っていて事前申請できていないと「19時までで申請しておきます」と言われた。
- 「残業時間は切りのいい時間で申請するのが常識でしょ？」と時間以上で申請するものでしょ、15分くらいで申請しないのが普通でしょ！」と言われた。
- 相談業務後の記録はルーティン業務なので、時間外勤務の対象にならないと言われた。



府職労 (大阪府関係職員労働組合)
電話：06-6941-3079
Mail：info@fusyokuro.gr.jp
LINE：@fusyokuro

Xmasオーナメントづくりと女性が働きやすい職場づくりをめざしてワークショップ



11月30日、府職労女性部は2020女性労働学校を開催し、女性組合員37人が参加しました。保育ルームも完備し、17人の子どもも参加し、楽しく賑やかな取り組みとなりました。

その後、女性部の石室常任委員が「妊娠出産権利アンケート」の結果について報告し、出席、子育ての制度を知らせていくためにも、アンケートを広げていくこと呼びかけました。



グループワーク

その後のグループ演習では、5グループにわかれて女性がいきいきと働き続けられる職場づくりのためには何が必要かを話し合い、そのために自分たちにできることを考え、実践で職場がどう変わるかを絵に描いて表現し、グループごとに発表しました。

「コーチングを学んでよかった！仕事にもいかせる！」

後半はコミュニケーション・オガナイジングの基礎(コーチングの手法)を学び、各グループで考えた「行動を実践に移すためのコーチングを相互に体験しました。」

「ランチタイム集会のテーマの決め方に課題があることに気づいた。さっさと実践したい！」とか「職場で相談されたときの話の聞き方を気づけることができた」「頭、心、手のどの部分なのか途中でわからなくなるのが難しい」などの感想も出されました。

「秋の憲法大学習会」が開催され、340人が参加しました。「九条の会」事務局局長で東京大学名誉教授の小森陽一さんが「改憲阻止の展望」をテーマに講演しました。

自民党の改憲案には「国および国民の安全を保つために必要な措置をとることを目的として、自衛隊を保持する」と書かれていますが、一見その通りだと思える内容ですが、小森さんは「この国民という言葉が要注意だ」と指摘します。世界中のあらゆる国で紛争が起きている場合、そこに移住を求めている国民を守るために、日本が戦地に出向き、殺戮を行うことを認める内容だということです。明日から活かせそうなことが多くあり、うれしかったそうです。

女性ならではの悩み、困りごと中心のワークショップだったので、自分ごととして参加できる内容でした。元気が出ました。ありがたうございました。明日から活かせそうなことが多くあり、うれしかったそうです。

「秋の憲法大学習会」が開催され、340人が参加しました。「九条の会」事務局局長で東京大学名誉教授の小森陽一さんが「改憲阻止の展望」をテーマに講演しました。

自民党の改憲案には「国および国民の安全を保つために必要な措置をとることを目的として、自衛隊を保持する」と書かれていますが、一見その通りだと思える内容ですが、小森さんは「この国民という言葉が要注意だ」と指摘します。世界中のあらゆる国で紛争が起きている場合、そこに移住を求めている国民を守るために、日本が戦地に出向き、殺戮を行うことを認める内容だということです。明日から活かせそうなことが多くあり、うれしかったそうです。



クリスマスオーナメントを作成

午前中は女性部の吉岡常任委員の指導のもと、クリスマスオーナメント(クリスマスツリー型の飾り)をみんなで作りました。「久しぶりの手縫いだ」「針穴に糸が通せない」などの歓声もあがり、わいわい楽しく作業を進め、それぞれがかわいいたった。イベントに向けて親子で何かをするのは素敵なことだと思えました。女性部ならではの思いがあります。

子どもといっしょに参加して子ども自分のやりたいように作品ができた。イベントにむけて親子で何かをするのは素敵なことだと思えました。女性部ならではの思いがあります。

「ランチタイム集会のテーマの決め方に課題があることに気づいた。さっさと実践したい！」とか「職場で相談されたときの話の聞き方を気づけることができた」「頭、心、手のどの部分なのか途中でわからなくなるのが難しい」などの感想も出されました。



女性ならではの悩み、困りごと中心のワークショップだったので、自分ごととして参加できる内容でした。元気が出ました。ありがたうございました。明日から活かせそうなことが多くあり、うれしかったそうです。

女性ならではの悩み、困りごと中心のワークショップだったので、自分ごととして参加できる内容でした。元気が出ました。ありがたうございました。明日から活かせそうなことが多くあり、うれしかったそうです。

職場を超えた青年のつながりで楽しい青年部活動を

11月15日、府職労青年部2020定期大会が開催されました。各職場から代議員・傍聴者を含め40名が参加しました。

青年部の越智書記長のあいさつでスタートし、初めに青年部作成のスライドショーによる活動報告がありました。青年部が企画した

を紹介し感想も交えて報告しました。

みんなのアイデアを出し合い、楽しい企画案を考える

活動報告に続いて、今回の大会のメイン企画である「グループワーク」を行いました。「誰もが安心して楽しく働こう」をテーマにお互いの「願い」を共有し、そのあとは「楽しくてわくわくする青年部にするために！みんなのアイデアを出し合って考えよう！」と青年部でやりたいことを

みんなでも出し合い、グループごとに企画案づくりを行いました。

初めは参加者の表情も硬く静かだった会場も時間が経つにつれ、あちこちで笑い声も起り、表情もいきいきとした笑顔へと変わっていききました。



どの企画案も好評！グループワーク発表

続いて、石野青年部長が2020年度の活動方針と要求書について説明し「いろんな職場の青年がつながって楽しい青年部活動を楽しみたい」と呼びかけました。その後、越智書記長が14人に増えた新役員を紹介しました。

大会の最後には、中川副部長が「不満やしんどいこととかなかなか言えない青年が集まってくれ。そんな青年が集まってくれ。そんな青年が集まってくれ」と締めくくりにあさいつをして、みんなで記念撮影をして大会は終了しました。

「レクリエーションだけでなくポテンシャルも使っていることを初めて知りました。災害ボランティア行きたいと思えました。」

楽しいことを一緒に考える場があつて仕事の励みになるんだと思えました。



9条を守ることでできるのは私たち一人ひとりの声です。踏切で電車を待つ、濡れた髪をドライヤーで乾かす、小さい頃からずっとそうしている、そういう日常をあたりに思っています。9条をないがしろにしてしまつたら、飛行機に乗っていても、フェリーに乗っていても命を脅かされることになります。平和の大切さを自覚し、一人でも多くの署名をみんなにも集めていたきたいと思っています。



メイン企画のグループワーク

グループワークのあと、黒木副部長の乾杯で交流会がスタートし、食事をしながら交流しました。各グループが考えた企画案についてのプレゼンもあり、淀川花火大会クルージングやキャンプ、スノーボード、京都散策、ゲーム大会、ビアガーデン、沖縄ツアーなど、いろいろな案が次々と飛び出しました。どの企画案も好評でしたが、投票の結果、大接戦の1票差で、中川副部長率いる3班の「ナイトクルージングDE淀川花火みいひん」が一番に選ばれました。

「もっとこういう話があったらいい」という声もたくさん寄せられ、活気あふれる大会となりました。

「これまでも青年部の活動に参加させていただきましたが、青年部の役員のみさんが毎月集まっているところを考えると企画してくださっているという感じが伝わってきた。よかった。」

「イベントを考えるというのは、やったことがなかったのが難しかったですが、みんなで話し合いながらワイワイと考えることができて楽しかったです。」

私の職場では青年部が一人だけなので、他の職場の青年部の方と交流できるととても良い機会でした。

同じ世代で集まる機会は今後も大切にしていきたいと思いました。自分たちのしたいことを伝えて、他の人の意見も聞き、楽しいイメージが浮かびました。

「秋の憲法大学習会」が開催され、340人が参加しました。「九条の会」事務局局長で東京大学名誉教授の小森陽一さんが「改憲阻止の展望」をテーマに講演しました。

自民党の改憲案には「国および国民の安全を保つために必要な措置をとることを目的として、自衛隊を保持する」と書かれていますが、一見その通りだと思える内容ですが、小森さんは「この国民という言葉が要注意だ」と指摘します。世界中のあらゆる国で紛争が起きている場合、そこに移住を求めている国民を守るために、日本が戦地に出向き、殺戮を行うことを認める内容だということです。明日から活かせそうなことが多くあり、うれしかったそうです。

私のオススメ

このコーナーでは、組合員みなさんに、おすすめしたい内容を投稿していただきます。本、映画、食べ物、観光スポットなど、何かおすすめしたいものがあれば、ぜひ、投稿してください。投稿していただき、採用された方には1000円分の図書カードを進呈します。

金沢の冬のごちそう

泉州農と緑の総合事務所 田所 佳奈

私の地元である金沢の冬のごちそうをご紹介します。「たら」精巣を白子、卵巣を真子と呼びます。白子はこの時期生食用が売られていて、ポン酢で食べると最高！真子は醤油・酒・みりんで炊くとみんな大好き「たらの子煮たやつ」の出来上がり。正式名称がないくらい県民の生活に密着している料理です。

「香箱」タラバガニのメスです。知り合いに送るのは立派なお土産、自分たちが食べるのは安くておいしいメス、と使い分ける県民が多いです。甲羅に熱燗を注いで飲むと、冬の金沢の味が一度に堪能できる幸福感。地元でもわずかな期間だけ味わえるごちそうです。

この時期のスーパーは特別の賑わいを見せています。金沢にお越しの際はぜひのぞいてみてください。

「りかことたいちの職場訪問 こんにちは組合員」「医療の現場から民のいのちと健康を守る府立病院」は今回お休みです。